

かみむぎくちまち

上麦口町集落協定（石川県小松市）

農村の「日常的」な資源をいかしたワークキャンプから関係人口の創出

協定面積:田 2.0ha(急傾斜0.3ha)

協定参加者:農業者8名、任意組織1 協定開始:平成12年度

石川県



小松市

地域の概要・経緯

- 本集落協定地区は、小松市の中心部から東南東約10kmに位置し、滓上(かすかみ)川の谷筋を走る国道沿いに16世帯50人が暮らす集落。
- 豊かな水と一日の寒暖差を生かした小松市のブランド米（「蛭米」）の生産地となっており、柿や栗、柚子なども栽培。
- 平成25年から令和元年まで毎年、集落の行事として国際ボランティア(国際ワークキャンプ)を受入れ、イノシシから農地を守る防止柵は、キャンプの参加者が描いた色とりどりのアートペイントで装飾。
- 通常10年～20年で交換が必要なイノシシ防止柵の耐性はペイント前の錆止め加工により30年ほどに延長。



【アートペイント後の記念撮影】

取組の概要

- 平成12年の集落協定の締結を契機に集落全体で水路・農道等の維持・管理や農地保全に取り組むとともに、平成18年に麦口地区営農組合を立ち上げ、全ての協定農用地をこの集落営農組織に集約し、農業経営の効率化と農村景観維持のための体制を整備。
- 国際ワークキャンプの参加者に集落内のさまざまな作業を担ってもらうことで人手不足解消に繋げており、神社周辺の草刈り（年3回）に本交付金が活用され、神社の参拝など、参加者には価値ある体験として楽しんでもらい、キャンプ終了後も継続的に交流を推進。
- 近年は週末ワークキャンプとして、市内大学生らが参加し、農地法面へのシバザクラ植栽等を担ってもらい、交流人口の増加に向けて継続的に取り組む。



【神社境内の清掃作業を終えて】



【週末ワークキャンプで植栽したシバザクラ】